

事業別の概況

■売上概況

●電池事業

アルカリ乾電池は、期初から期中にかけて順調に推移したものの、期後半に入り海外向けが伸び悩んだことにより、前年同期並みとなりました。ニッケル水素電池は、シェーバー、電動アシスト自転車用などの幅広い用途において受注が拡大するとともに、国内外のOEM向けが伸長し、当初の計画を上回りました。リチウム電池は、円筒形のラインアップが拡大し、防犯・防災機器用および各種メーター用が伸長するとともに、新たにコイン形を中心に携帯電話、ノートパソコン、デジタルカメラ用などの売上が加わりました。

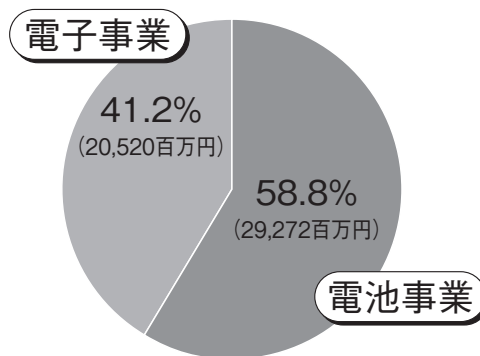
その結果、当事業全体の売上高は、前年同期に比べ165.1%増の292億72百万円となりました。

●電子事業

コイルデバイスは、自動車用が伸長したことにより、前年同期を上回りました。圧電部品は、デジタルカメラ用が伸長したことにより、前年同期を上回りました。積層チップパワーインダクタは、前年同期並みにとどまりました。トナーは、景気回復による需要拡大の影響で前年同期を上回りました。光通信部品は、光海底ケーブル敷設需要の低迷などの影響を受け、前年同期を下回りました。スイッチング電源は、前年同期を上回りました。液晶ディスプレイ用信号処理モジュールは、テレビ用が伸長し、前年同期を上回りました。

その結果、当事業全体の売上高は、前年同期に比べ2.5%増の205億20百万円となりました。

■売上高構成比率



■売上高

